

はじめに

本年３月、メキシコで豚インフルエンザウイルスによる患者が発生し、４月下旬、患者の世界的な流行をもとに、WHO（世界保健機構）は、新型インフルエンザの発生として、「フェーズ４」を宣言した。これを受け、各衛生研究所において、新型インフルエンザの検査体制を早急に整備し、地方での患者の発生に対応することとなった。昨年、一昨年は、中国産の冷凍ギョーザの残留農薬、メラミンの混入食品などの事件に伴い、地方衛生研究所においても、より高度な検査技術が必要となった。

こうしたことから、地方においても健康危機管理に対する検査体制の重要性が一層高まってきています。中国産食品の残留農薬、化学物質の混入問題や新型インフルエンザの流行などは、地球規模での食品の流通や人の移動がもたらす負の影響であり、その影響は衛生研究所の業務にまさに直接跳ね返ってきています。その意味では、常日頃からの健康危機管理として、危機に対して早期に対応することが必要であり、そのための検査体制の整備や検査技術の向上などに日々努力する必要があると考えています。

このため、当所では、試験検査の技術、精度に関する技術委員会、市民等への情報提供に関する情報委員会を設置し、機能の充実に努めています。

衛生研究所では、河川、大気等の環境や食品、飲用水等の生活日常品等の定例的なモニタリング検査を実施していますが、一方では、今回のような広域的、世界的な規模で予期せぬ事態の発生にこれからまだまだ備えていく必要があります。

衛生研究所を取り巻く環境は、人員の削減、予算の減額など年々きびしい状況となっていますが、今後とも、地方の科学的、技術的な中核機関として、職員一同市民の期待に応えられるよう努力してまいりたいと考えております。

このほど、平成２０年度に実施しました業務概要と調査研究の成果を、広島市衛生研究所年報第２８号として発行しましたのでお届けします。御高覧のうえ御意見いただければ幸いと存じます。

平成２１年９月

広島市衛生研究所長 吉岡 嘉暁

I 沿革

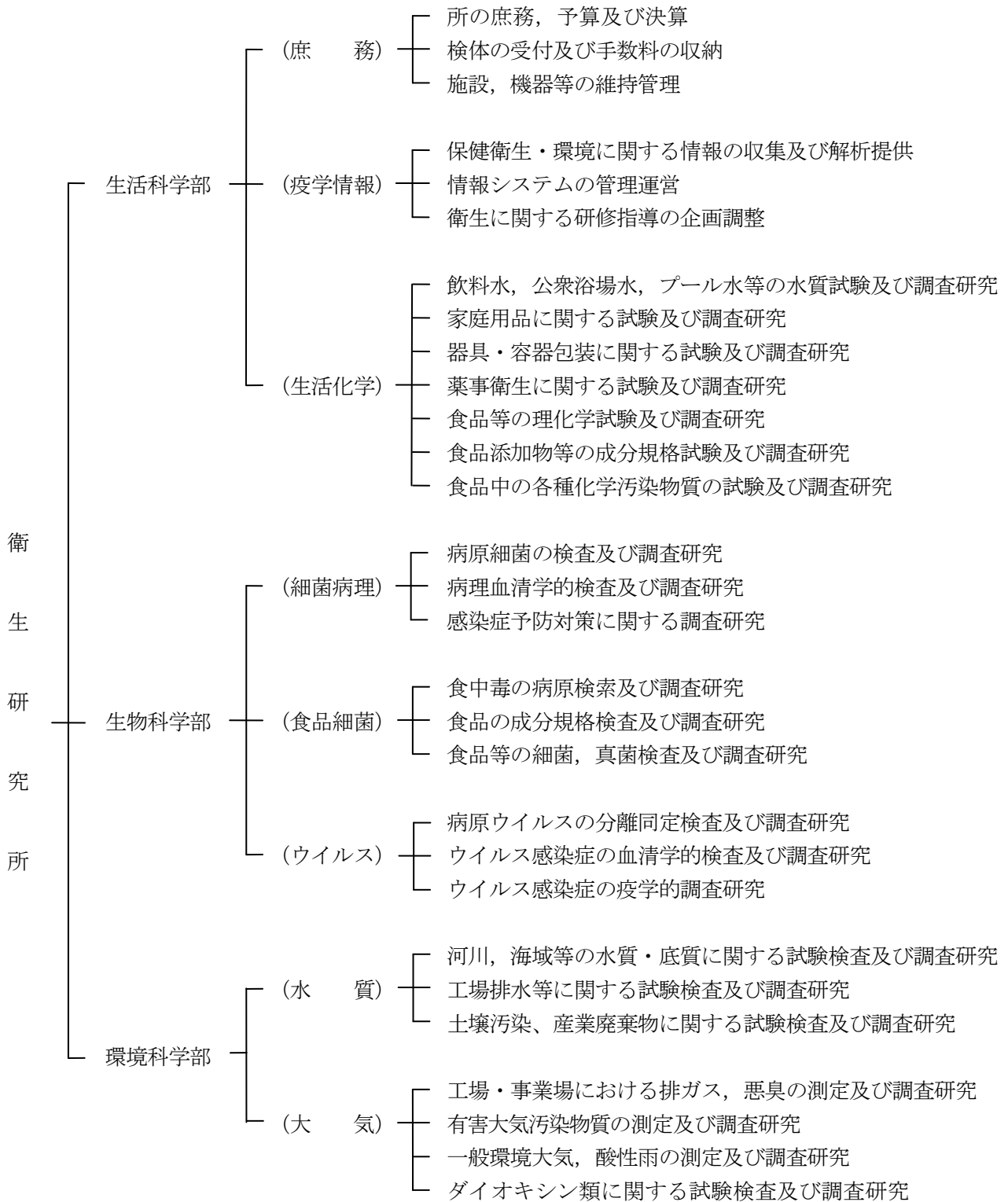
昭和25年7月、当所の前身である衛生試験室が、広島市保健所に設置された。その後、昭和44年4月衛生試験所として独立、昭和46年10月に公害試験所を分離設置し、市民生活の衛生的基盤の確立に努力してきた。

昭和55年政令指定都市昇格を機に、昭和57年4月衛生試験所と公害試験所を統合し衛生研究所を新設した。現在は、庶務・疫学情報・環境衛生・食品化学に関する業務を行う生活科学部、細菌病理・食品細菌・ウイルスに関する業務を行う生物科学部、水質・大気・ダイオキシン類に関する業務を行う環境科学部の3部体制をとり、複雑多様化してきた公衆衛生に係る行政需要に対応している。

年	譜
昭和25年 7月	広島市保健所（昭和28年より東保健所）に衛生試験室を設置。
昭和44年 4月	衛生試験所条例施行により、東保健所の2階の一部に衛生試験所（化学試験係、細菌病理検査係）を設置。
昭和45年 1月	東保健所に増築された3階部分に移転。
昭和46年10月	化学試験係より公害関連業務を分離、環境保全部に公害試験所を新設。
昭和48年 4月	衛生試験所の係制を科制に変更。
昭和50年 7月	衛生試験所に環境科を新設し、化学試験科を食品科に改め、細菌病理科と合わせて3科体制となる。
昭和55年 3月	衛生研究所建設事業計画に基づいて、庁舎の建設に着手。
昭和55年 4月	政令指定都市に昇格。 衛生試験所に食品衛生科を新設し、食品科を食品化学科に、環境科を環境衛生科に改め、細菌病理科と合わせて4科体制となる。 公害試験所は水質科と大気科の2科体制となる。
昭和57年 4月	衛生研究所条例施行により衛生試験所と公害試験所を統合し、西区商工センター四丁目に衛生研究所を設置。 食品環境部、微生物部、公害部の3部体制で発足。
平成 7年 3月	本館内に生物安全実験室(P3：ウイルス)を整備。
平成 9年 4月	食品環境部を生活科学部に、微生物部を生物科学部に、公害部を環境科学部に改める。
平成13年 3月	化学物質安全実験施設を整備。
平成15年 3月	学識経験者等の外部委員による機関評価を実施。
平成20年 6月	本館内に生物安全実験室(P3：細菌)を整備。

Ⅱ 組織機構及び業務内容

1 組織及び業務内容



2 職員配置

(平成21年4月1日現在)

部 門 \ 職 種		事 務 員 吏 員	技 術 吏 員						計
			技 師		医師	薬剂師	獣医師	臨床検査技師	
			化学系	農学系					
(兼) 所 長					1				1
生活科学部	部 長			1					1
	(庶 務)	4							4
	(疫学情報)		2						2
	(生活化学)		7	1					8
生物科学部	部 長			1					1
	(細菌病理)					1	2	1	4
	(食品細菌)		1	1			1	1	4
	(ウイルス)					2	2		4
環境科学部	部 長		1						1
	(水 質)		6						6
	(大 気)		4			1		1	6
合 計		4	21	4	1	4	5	3	42

3 職員名簿

(平成21年 4月 1日現在)

(兼) 所 長 吉岡 嘉暁

生活科学部

部 長 後藤 茂

(庶 務)

主 幹(事)主任 原田 巧

主 査 廣本 喜稔

主 事 稲積 聖二

主 事 下前 こころ

(疫学情報)

専門員 片岡 真喜夫

専門員 磯野 裕之

(生活化学)

専門員(事)主任 末田 義博

専門員 橋本 和久

専門員 常政 典貴

主任技師 長谷川 富子

主任技師 松木 司

主任技師 佐々木 珠生

技 師 林 貴寛

技 師 岩本 安未

生物科学部

部 長 笠間 良雄

(細菌病理)

専門員(事)主任 池田 義文

技 師 宮野 高光

技 師 末永 朱美

技 師 田中 寛子

(食品細菌)

専門員 石村 勝之

主任技師 毛利 好江

主任技師 花木 陽子

技 師 国井 悦子

(ウイルス)

専門員 伊藤 文明

主任技師 阿部 勝彦

主任技師 山本 美和子

技 師 岡田 麻由

環境科学部

部 長 加納 茂

(水 質)

専門員(事)主任 山本 修

専門員 田村 貴

専門員 松尾 愛子

主任技師 吉貞 奈穂子

技 師 小串 恭子

技 師 泉 良子

(大 気)

専門員 國弘 節

専門員 細末 次郎

主任技師 小中 ゆかり

主任技師 村野 勢津子

主任技師 吉岡 英明

技 師 築地 裕美

Ⅲ 庁舎及び施設概要

1 建物・施設概要

(1) 建設規模

ア	敷地面積		5,575.56 m ²
イ	建築面積	総建築面積	1,529.96 m ²
		総延床面積	4,915.141m ²

ウ 建物概要

本館	鉄筋コンクリート造	地下1階・地上4階建（一部5階）
	建築面積	1,101.86 m ²
	延床面積	4,487.041m ²

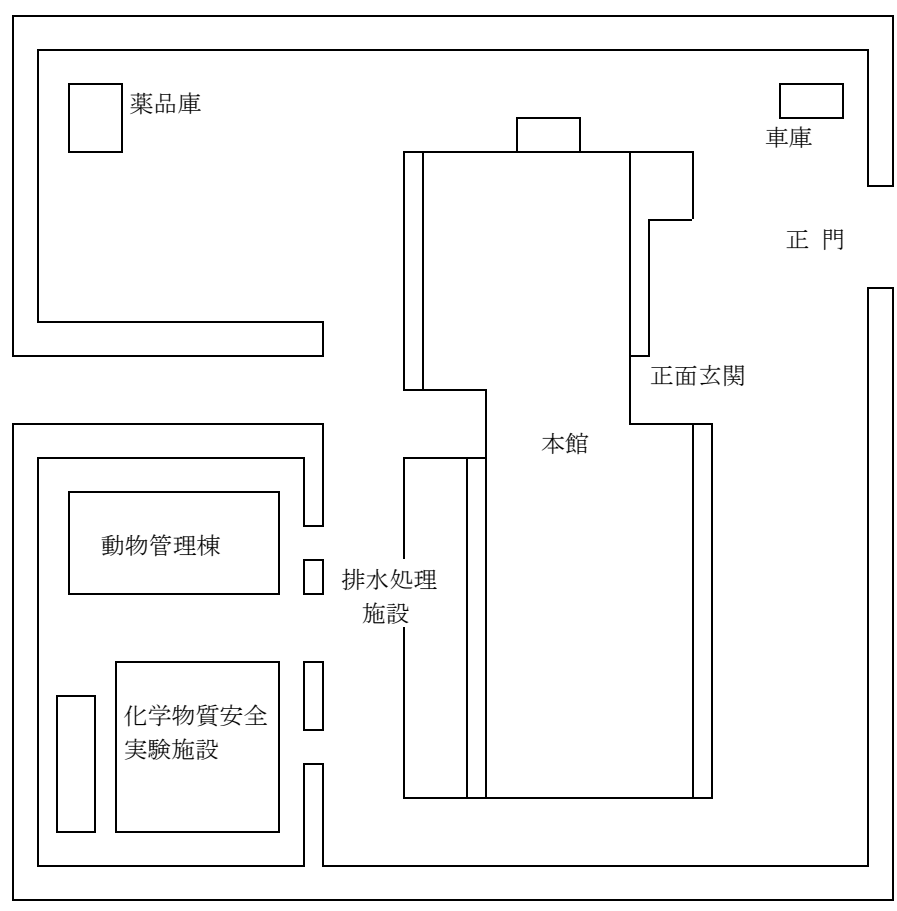
化学物質安全実験施設

	鉄筋コンクリート造平屋建	床面積	204.27m ² （内 倉庫等90.83m ² を含む）
動物管理棟	鉄筋コンクリート造平屋建	床面積	199.83m ²
薬品庫	ブロック造平屋建	床面積	24 m ²

(2) 設備概要

電気設備	非常用発電機	6.6kV	375kVA
排水処理設備	pH調整装置		

2 庁舎配置図



IV 予算概要

1 予算概要

科 目		予 算 額 (当初)	
		平成21年度	平成20年度
歳 入		(千円)	(千円)
使用料及び手数料			
手 数 料			
衛生手数料	保 健 衛 生 手 数 料	4,905	5,861
国庫支出金			
国庫負担金			
衛生費国庫負担金	保 健 衛 生 費 負 担 金	456	456
市 債			
市 債			
衛生費	保 健 衛 生 債	43,800	41,400
計		49,161	47,717
歳 出			
衛生費			
保健衛生費			
保健衛生総務費	需 用 費	243	282
	役 務 費	0	22
	使用料及び賃借料	1,991	1,991
	(小 計)	(2,234)	(2,295)
環境衛生費	旅 費	3,313	2,831
	需用費	51,577	48,213
	役 務 費	590	754
	委 託 料	70,744	51,633
	使用料及び賃借料	1,679	1,896
	工事請負費	9,100	30,200
	備品購入費	28,000	29,028
	負担金, 補助及び交付金	379	732
	公 課 費	22	60
	(小 計)	(165,404)	(165,347)
計		167,638	167,642

2 平成20年度主要整備機器

品 名	型 式	数 量
質量分析装置 (GC/MS/MS)	ジヤスコインテグナル Quattro micro GC	1
光度計	光度計 (島津製作所製 UV-1800)	1

V 会議・研修等

1 会議

年 月 日	会 議 名	開催地	出席者名
20. 4. 17～18	第82回日本感染症学会総会・学術講演会	松江市	蔵田
4. 25	全国環境研協議会第1回理事会	東京都	加納
5. 13	平成20年度地方衛生研究所全国協議会第1回理事会	東京都	吉岡
5. 15～16	第62回地方衛生研究所全国協議会中国四国支部会議・平成20年度全国環境研協議会中国四国支部会議 (所長部会・庶務部会・理化学部会・微生物部会・水質部会・廃棄物部会・大気部会)	広島市	吉岡・後藤 笠間・加納 他
5. 27	原因不明の食中毒研究会	岡山市	林
5. 28～30	第59回全国水道研究発表会	仙台市	橋本
6. 5～ 6	第21回におい・かおり環境学会	東京都	下田
6. 5～ 6	平成20年度全国地方衛生研究所長会議・平成20年度地方衛生研究所全国協議会臨時総会	東京都	後藤
6. 11～13	第17回環境化学討論会	神戸市	細末
6. 14～15	第49回日本臨床ウイルス学会	犬山市	国寄
6. 24～25	衛生微生物技術協議会第29回研究会	東京都	笠間・蔵田 阿部
7. 8	平成19年度環境測定分析統一精度管理調査結果説明会	岡山市	細末・吉貞
7. 9	平成20年度環境測定分析統一精度管理ブロック会議	松山市	松尾・下田
8. 1	平成20年度第1回厚生労働科学研究分担研究班会議	東京都	佐々木・河瀬
8. 27～28	平成20年度中国地区衛生環境研究所長会議・第54回中国地区公衆衛生学会	広島市	吉岡
8. 28～29	平成20年度指定都市衛生研究所長会議	川崎市	後藤
9. 3	瀬戸内海水環境研会議企画検討会	神戸市	山岡
9. 10～12	日本分析化学会第57年会	福岡市	光野
9. 11	平成20年度地方衛生研究所全国協議会第2回理事会	東京都	吉岡
9. 11～12	日本防菌防黴学会第35回年次大会	浜松市	毛利
9. 16～19	第49回大気環境学会年会及び第17回全国酸性雨対策連絡会議	金沢市	中村
9. 17～18	第11回日本水環境学会シンポジウム	吹田市	山本(修)
9. 18～19	日本食品衛生学会第96回学術講演会	神戸市	佐々木
9. 30	瀬戸内海マリントキシン研究会	岡山市	林
10. 26～28	第56回日本ウイルス学会学術集会	岡山市	山本(美)

年 月 日	会 議 名	開催地	出席者名
11. 4	第59回地方衛生研究所全国協議会総会	福岡市	吉岡
11. 5～ 7	第67回日本公衆衛生学会総会	福岡市	長谷川
11. 13～14	第45回全国衛生化学技術協議会年会	佐賀市	河瀬
11. 18～19	第35回環境保全公害防止研究発表会	広島市	山本・國弘 松尾
11. 19～21	第19回廃棄物学会研究発表会	京都市	下田
12. 2	第1回日本カンピロバクター研究会	東京都	花木
12. 13～14	環境ホルモン学会第11回研究発表会	東京都	山岡
21. 1. 15	平成20年度第2回厚生労働科学研究分担研究班会議	東京都	佐々木・河瀬
1. 22～23	第22回公衆衛生情報研究協議会総会・研究会	神戸市	後藤・磯野
2. 6	第32回瀬戸内海水環境研会議	神戸市	松尾
2. 6	日本食品衛生学会第11回特別シンポジウム	東京都	末田
2. 25～26	第37回全国環境研協議会総会・平成20年度地方公共団体 環境試験研究機関等所長会議	東京都	加納
3. 12	広島県水道水質検査精度管理担当者意見交換会	福山市	橋本
3. 13	平成20年度広域的健康危機管理対応体制整備事業「中国 四国ブロック広域連携検討会」	岡山市	笠間、伊藤
3. 16～18	第43回日本水環境学会年会	山口市	松室
3. 26～28	日本薬学会第129年会	京都市	橋本

2 研修・講習会

年 月 日	研修・講習会名	研修機関名	参加者
20. 4. 22	平成20年度玩具・容器包装研修会	食品衛生登録検査機関協会	常政
4. 23	第5回結核感染診断技術研究会	国立感染症研究所	末永
5. 12～21	VOC s 分析研修（水質）	環境省環境調査研修所	金行
5. 21～23	平成20年度食品安全行政講習会	厚生労働省医薬食品局	松木
7. 17	2008HPCセミナー	林純薬工業（株）	佐々木
8. 1	食品衛生検査施設信頼性確保部門責任者等研修会	厚生労働省医薬食品局	末田
8. 11	特定病原体等の運搬に関する講習	厚生労働省健康局	蔵田
8. 25～	ダイオキシン類環境モニタリング研修 （基礎課程）	環境省環境調査研修所	細末
9. 12	水道水質検査精度管理に関する研修会	厚生労働省健康局	橋本
9. 18～19	第30回MSセミナー	日本電子データム（株）	常政
10. 20～31	特定機器分析研修Ⅱ（LC/MS）	環境省環境調査研修所	林
10. 31	食品環境セミナー2008	ジャスコインタショナル(株)	松木
12. 5	平成20年度放射線安全管理講習会	放射線障害防止中央協議会	山本(修)
21. 1. 29～30	平成20年度化学物質環境実態調査環境 科学セミナー	(財)日本環境センター	金行
2. 12～13	平成20年度国立環境研究所環境情報ネ ットワーク研究会	国立環境研究所	片岡
2. 16～20	アスベスト分析研修	環境省環境調査研修所	下田
2. 24～25	平成20年度稀少感染症診断技術研修会	厚生労働省健康局	蔵田

3 所内研修

日 程	名 称	内 容	講師・発表者
20. 4. 18	基本行政研修	衛生研究所条例 生活科学部の業務 生物科学部の業務 環境科学部の業務（水質） 〃（大気）	吉岡 嘉暁 末田 義博 池田 義文 山本 修 國弘 節
10. 7	学習ノート勉強会 (1回目)	理化学試験の精度管理 細菌学的検査の精度管理	末田 義博 笠間 良雄
10. 7	信頼性保証セミナー (1回目)	化学計測における変動解析 1 残留農薬分析における精度管理について 検査員の画線分離技能に対する内部精度管理 環境調査における留意点について	吉岡 嘉暁 林 貴寛 蔵田 和正 山本 修
21. 1. 28	信頼性保証セミナー (2回目)	化学計測における変動解析 2 精度管理の取り組み 食品等のノロウイルス検査について イオンクロマトグラフについて	吉岡 嘉暁 常政 典貴 阿部 勝彦 中村 和央
3. 11	業績発表会	広島市の酸性雨 広島湾におけるケイ酸塩実態調査 広島市感染症情報センターホームページのアクセス数 食の安全・安心を揺るがした1年を振り返って 広島市における過去20年間の家庭用品試験の推移 PCRを利用した肉種鑑別法の検討 GC/MS/MSによる農作物中の残留農薬一斉分析法の検討 食品中に含まれる微量農薬の分析法と精度管理体制の構築に関する研究 SPMEを用いた分析 広島市域におけるパレコウイルスの検出状況 広島市域におけるノロウイルスの検出状況 広島市域におけるヒトメタニューモウイルスの検出状況 H I V の検出状況 P F G E の精度管理について 腸管出血性大腸菌0157:H7の分子疫学的解析法の比較と検討 食品からの細菌検査法の標準化検討状況	國弘 節 山岡 雄一郎 磯野 裕之 末田 義博 橋本 和久 常政 典貴 佐々木 珠生 河瀬 志保 林 貴寛 山本 美和子 阿部 勝彦 伊藤 文明 国寄 勝也 蔵田 和正 末永 朱美 石村 勝之
3. 30	IT発表会	業績発表会の調査研究テーマ	—

4 研修指導

(1) 技術指導

年 月 日	指 導 内 容	受 講 者	人 員	担 当
20. 10. 27～29	環境測定技術	ブータン王国ティンプー市職員	1	生活科学部
20. 11. 27～28	ノロウイルス検査	中国四国地研ウイルス担当職員	11	生物科学部
21. 3. 5～ 6	食品細菌の検査技術	広島市食品衛生協会会員	7	生物科学部

(2) 講師派遣

年 月 日	講演会等の名称及び内容	依 頼 機 関	講 師 名
21. 3. 12	新型インフルエンザ実地研修会	健康福祉局保健医療課	伊藤 文明

5 施設見学等

(1) 先進地視察

年 月 日	目 的	視 察 先	参 加 者
20. 12. 19	PCRを使った鑑別法の研修	福岡市	常政

(2) 施設見学

年 月 日	見 学 者	人 員
21. 2. 12	学校法人古沢学園広島製菓専門学校製菓衛生師科学生	13
21. 3. 4	広島酔心調理師専門学校専門課程調理師科 1 年生	91